

Offshore¹²

1982

法人 日本外洋帆走協会発行No. 93/300円

昭和57年12月15日発行（毎月1回15日発行）昭和52年7月21日 第三種郵便物認可



神子元島レース・スタート直後
撮影：岡本甫／提供：船社

第9回 三宅島レース

レース委員長 井上 玲

去る9月23日スタートの第9回三宅島レースでは、最終エントリー18隻、出艇申告が10隻、スタートしたのが5隻(完走が1隻)というさみしいレースになってしまった。

このように少なくなった理由は、まず日程的に、三宅のような長いレースの休みを取れる人が少ないこと。天候問題。台風が近づいていることもあり、ハーバーの出入りに支障があったこと。または乗組員の構成に不安のある船などがあったようである。

22日の夜1830より、NORC本部10Fにて出艇申告。7隻受け付け、1900より艇長会議を行う。帆走指示書の説明、保安庁よりの伝達事項(ライフジャケット、ハーネスを付けることなど)、台風が近づいていることなどを伝え、1920に終えたところ、3隻遅れてきたので、その3隻のみでもう一度艇長会議を行う。その中に事故を起こしてしまった飯野さん(ポインシアナ)が来ており、にっこり笑っていたのをいまでも覚えている。同じ内容で艇長会議を行い、解散をする。

その日のうちに佐島に行き、本部船である(海猫)に午前0200ごろ着きバースにもぐりこむ。朝0700ごろ父親に起こされ、いろいろ段取りをする。船をシーボニアに運ぶのは(スタートがシーボニア沖なので)父親にまかせ、自分は車で一足先に行き、スタート時使用するものをそろえる。

そうこうしているうちに、油壺のヨットから漁船が入っていて出航できずと連絡が入る。葉山の〈トップライナー〉からも、「天候が思わしくないので取り辞めます」と連絡が入り、この時点で6隻となる。電話番号を一人残して、スタートライン設定に7人で向かう。途中〈ブルーノート〉(江ノ島フリート)と出会い「レースに出るのは辞めました」と言ってきた。これで5隻となる。

天候一雨、風速一6~7m(ブローで10mぐらい)、風向一NE、波高一1mぐらい、三宅島付近に台風の影響で前線が上がってきており、かなり吹くことが予想された。

1030には、スタートラインを設定し終わって、一息をつく。しばらくして、〈つるぎ〉がやってきて、本部船の回りを走り始める。そしてシーボニアから〈ロシナンテ〉、〈がめら〉、〈シルフィデス〉、〈ポインシアナ〉と出てきてスタートラインを行き来する。

1100、定刻通りスタートを行う。オールフェア。〈ポインシアナ〉がスピンを上げずにトップでスタートしていったのが、印象的だった。スタートラインを片

付けてシーボニアにもどり、保安庁に電話報告する。みんなで食事をし、くつろぐ。フィニッシュラインを何時に設定するかで意見が二つに分かれる。2100の〈がめら〉とのロールコールを行ってから決めることにする。

2005〈つるぎ〉より1330大島手前10マイルぐらいでリタイヤー、諸磯に入港とのこと。やはりかなり吹き始めているようである。

2030アマチュア無線145・16MHで「MAYDAY」を受けたとシオヤさんという方から電話連絡が入る。内容は1805三宅島NE10マイル地点にてヨット〈ポインシアナ〉より落水事故あり、落水者イイノ、レース本部及び保安庁に連絡してくれとのことである。

一番恐れていたことが起きてしまった。すぐに横須賀保安に連絡。

2035〈がめら〉よりリタイヤーの無線が入ったと通信委員会の篠原さんより連絡がある。〈ポインシアナ〉のことを報告、すぐに応援にきてくれるとのこと。

下田保安より事故の通報、巡視船2隻で捜索にいていただけとのこと。レースについて、〈ポインシアナ〉について詳しく答える。

レース委員会の武市俊氏に2100電話連絡、状況報告。0200ぐらいまでに来てくれるとのこと。理事の清水栄太郎氏に電話したところ、本人はもうこちらに向かったとのこと。

2120〈がめら〉より三宅島阿古港入港、〈シルフィデス〉も一緒に連絡を受ける。風速25mぐらい、波高2~4m、風向NE。清水さんより電話があり、状況報告。〈ポインシアナ〉緊急連絡先に電話、とそれ以後は保安庁、あるいは関係者捜しの電話連絡が続く。

2300ごろ篠原さんがみえいろいろ連絡をとっていた。まず落水事故対策本部をつくらうということになり、〈ポインシアナ〉関係者と連絡をとる。

翌日0100過ぎ武市氏、清水氏が応援に来てくれた。その後、歌田氏も見える。それ以後は理事の方々に対処してもらい、フィニッシュラインの設定にあたることにする。緊急時を聞きかけつけてくれた方と一緒にフィニッシュラインを設定する。結局これが早すぎて、3人による12時間ワッチになってしまった。ごくろうさまでした。

朝方になり〈ポインシアナ〉の出艇申告が、違うことが分かる。川部さんという方が乗っているはずなのに、その川部さん本人と連絡がついたのである。変わりに阿部さんという方が乗っているとのことである。

さっそく来てもらい、とりあえず事故本部の指揮をとってもらおう。昼近くなるともう〈ポインシアナ〉関係者の方がみえだし、本部はもういっぱいになり、私のやることもなくなってきた。あとは連絡のない〈ポインシアナ〉の行方がきになりだす。二重遭難にならないければとただ祈る。

1300ごろ〈ロシナンテ〉より、急に無線により瓜木沖10マイル、快調に帆走中と連絡が入り、ホットする。

1400 〈ポインシアナ〉下田入港。やはり落水者は拾うことができなかつたようである。

1500ごろ本部船に私も行きワッチを手伝う。〈ロシナンテ〉が入ってきた。サタドーまで約7時間、帰りが約21時間と帰りの上りで苦戦したようである。メンバーを見るとそれなりのメンバーが乗っていたように思われる。トリスルにNo.2である。皆ライフジャケット、ハーネスをつけ、顔は潮焼けで真赤で、疲れきった様子である。ブームがついてないのでどうしたのかときくと、ジャイブの時にトラブルを起こしたらしい。〈ポインシアナ〉のことを話す。

本部船を引き上げ、シーボニアに帰る。レース備品を片付け、1700ごろレース本部を解散する。その後は事故本部の手伝いとなる。私もスタートしてからほとんど眠っておらず、その日は休ませてもらうことにする。

26日に捜索を手伝ってくれといわれ行ってみると、人数が多いので〈海猫〉(本部船)を佐島へ回航することにする。事故が起きた後で、非常に気をつけてしまった。

10月5日、下田保安庁にて調書をとられる。

今回の反省点を述べると、まず出艇申告書についてであるが、乗艇者の名前が違っているものが一つ、会員であるかないかの違うものが一つ、住所宛に神奈川県としか書いてないもの、電話連絡先もオーナー宅しか書いてないものなど、いざという時にコミッティー泣かせになるものが多かった。事故が起きたことを考え、できるだけ詳しく書いてほしかった。私自身もよ

く確認しなかつたのはまずかつたと思うが、このような船は失格となりますので注意して下さい。

次に艇長会議にて、口頭でいいから緊急の場合の処置方法を話しとくべきだ、と保安庁にていわれ、私自身もそう思った。落水事故が発生した場合、すぐフレアーを上げるなど細かくいってけばよかつたのではないかと思つた。

無線機についてであるが、あのような状況で出ていられる方は、緊急時にそなえ、安全を考え、付けるべきではないかと思うし、そうではない方もつけるように勧める。

そしてなによりも、ライフジャケット、ハーネスの装備、着用。残念ながら落水者は船酔いのため付けてなかつた模様だ。周りの方々もあのような状況になつたら本人の責任といわず気を配ってほしかつた。

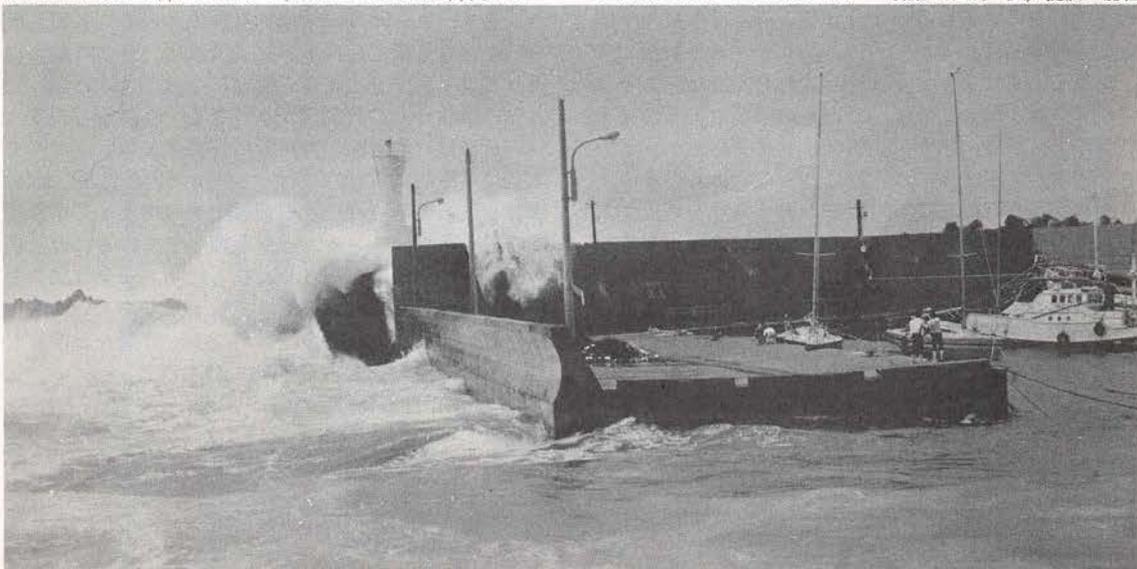
またレースについてであるが、クラブ方針により出艇する船があれば行こうとあるが、今回のように5隻にてレースを行つて意味があるのかといろいろな意味において考えさせられる。保安庁の方でも、今回〈ポインシアナ〉のオーナーに業務上過失致死で刑事処分を訴つたえており、この後もレースを続けていくためには、安全面でNORC、各オーナーともに考え直さなければ、レースが続けられなくなるのでは、とも思う次第である。死んでしまつては元も子もないことであるし、オーナー、クルーともに船に乗るからには、シーマンシップを学んでほしいと思う。次回レース委員長をやられる方は、少なくともそのような点をしっかりとかなないと、保安庁の方からとばっちりをもらうかもしれないので、NORCとよく相談して行つて下さい。

なお、応援に来て下さつたの方々、本当にご苦労さまでした。私自身、力になれなくて恐縮しております。〈ポインシアナ〉の方々、飯野さんの家族の方々、一ヨットマンとして心から追悼の意を表し、今後このような事故が起こることのないように願う所存であります。

9/24三宅島阿古港

風は南西に変わり(〈ポインシアナ〉事故当時は北東風)、阿古港に

避難した〈がめら〉と〈シルフィデス〉は、捜索に出たくても港から出ることが不可能だつた。 撮影：西村一広/提供：舵社



海事思想普及

船舶振興会補助事業

'82年安全フェスティバル報告

安全委員長
児玉萬平

この報告を書きはじめたまさにその時、あの三宅島レースでの落水事故を知った。それからしばらく手かずであった報告をようやく今仕上げようと思う。

その日の朝、私自身もレースに参加するため油壺に向かった。台風的位置も遠く、雨はふり続いていたものの普段のレースの朝と変わらなかった。しかし油壺はすでに早々と避難した漁船でいっぱいとなり、レース参加への出港をはばまれてしまった。結果、レースのスタートをシーボニアの突堤から見送るはめになった。その夕の出来事と経過は既に詳しいレポートによって報告された通りである。その一報に接した時、安全フェスティバルの報告に筆が進むわけがなく、ただ「自分がもし事故艇の艇長だったら？」というとりとめない思いだけが残った。自分ならその時ハーネスの着用を命令したか。救助は行えるか。救助信号は……家族にはどのように伝えるのか。……起こるべくして起こった事故だといわれる。確かにそうだ。だが「自分は絶対にミスを犯さないか」正直、答えられる自信はない。唯一つ言えることは、人自身より、人の判断よりはるかにフネの方が強いという事実だ。「フネから絶対に離れない」これに勝る事故予防はない。ところが、この見方で安全規則なり、備品なりを見ると、改めて安全対策が一つにかかって、艇長・乗員の判断、あるいは艇それ自身によるものが分かる。例えば事故の予防としての備品は、①ハーネス、②レーダー反射板、③アンカー、④フォグフォーン、これしかない。あとはすべて事故が起きてしまったからの備品である、ライフラフト、ブイ、木セン……etc. ライフジャケットでさえ落水してしまっただけから役立つものである。その上落水や浸水などが起こる可能性のある海象を考えれば、これらの備品の大部分が果たして満足に使用出来るか否か……自信のないものばかりである。

今年安全フェスティバルは正にこの自信のなさへの証明であった。

9月3日の朝、例の週末定期便となった台風の影響で、江の島ヨットハーバーは20ktを超える東のブロー

に波立っていた。当日予定された江の島フィニッシュのレースもキャンセルされた。こんな中で行われたライフラフトの展開実験や、救助方のデモを見た参加者にとって、改めて自身の身を守ることに心もとなさを感じたはずだ。白いケースに納められたライフラフトは、それを積む者にとっては一つの救いでもあった。「これがあればフネが沈んでも最後には助かる」だが一吹きのプロローで簡単にあおられてしまう事実、流されて行くその早さを見、遭難体験者やメーカーよりの事例説明による様々な注意、弱点を聞くにつれ、その救いも泡と消えた。遠くに投げられない馬蹄形ブイ、20ktの風では立ててられないフラッグブイ etc. ことほど左様に心もとないものばかりなのだ。

備品だけの問題ではない。今回の事故でも通信手段とりわけアマチュア無線への問題提起がなされたが、常時ワッチ体制のある2MHzの積極利用、EPABの搭載、極限状態での使用を前提とした討議、これなども単に通信委員会や安全委員会の問題でなく、ヨット乗りとメーカーとの生の声のぶつけ合いの中から効果的な解決策が生まれてくるはずだ。その意味で、当日江の島ヨットクラブの2Fで行われた各通信機メーカーの展示は、一つの討議の場所を与えてた数少ない機会の一つであった。特に近い将来、使用が許可されるであろう衛星航海計器、ビデオプロッターなどは、今から接し、ヨット乗りの目で見、批判し、フィードバックすることが意味ある機器に育てることに通ずると思われた。

ライフラフトの展開実験に、荒れた冷たい海に3人も飛び込んでくれた東洋ゴムの方々、台風の中、千葉は市原からかけつけた発煙信号の国際化工、解説書まで用意し、手伝いの女性まで参加した共立電波、おなじみの光電、中村船具、パンフレットを豊富に用意してくれた八重洲無線や大洋無線そして古野電気皆さん、救急法の佐島の上原先生……コミュニケーションの一方の側の熱意は並々ならぬものを感じたのだが、肝心のヨット乗りの方は、週末ごとに続く台風に意気消沈したのか、今一歩迫力不足であった。主催者側の反省としてとらえたい。ただパーティー終了後に行われた協賛メーカーよりの景品抽選会において、各艇に配られた非常食糧や飲料水の試食試飲は、日ごろ飽食に慣れたヨットマンへ無言の警鐘になったようだ。

先の事故からの教訓ばかりでなく、普段からの安全への意識付けの意味から、この安全フェスティバルもさらに実際的に実証的に行って行きたいと思う。また、備品や機器のメーカーとの情報交換の場としてより多くのヨット乗りやメーカーが参加してくれることを願う。来年度の企画を充実させたいと思う。安全は誰れも与えてくれるものではなく、ヨット乗り一人一人が作るべきものだ。来年度企画への提案、要望をお待ちしている。「TO SEE IS TO BELIVE」

'83年度は6月上旬、江の島ヨットハーバーで行われる。

〈おおみずなぎどり〉 事故報告書

日時 10月11日午前0930ごろ
場所 千葉県州崎沖南東約2マイル
事故状況

〈おおみずなぎどり〉北村宗彬オーナー、石渡一夫スキッパーは、10月10日の諸磯フリートのメラレースに出場し、レースは無事終了。翌10月11日千葉県メラ港を10月11日午前0810諸磯に向け出港した。乗員は、北村オーナー、石渡スキッパーを含め7名。全員22歳以上。ヨット歴10年以上4名がいた。

天候は雨。北東の風11~13m。メインの1ポイントリーフの機帆走。オーナーと船酔の学生1名はオフワッチで船内におり、5名がワッチしていた。

午前0930ごろ、クルーの小菅がオフワッチで船内に入ったところ、浸水に気がつき私に報告した。ただちに浸水場所のチェックと全員ワッチを命じた。

小菅の報告によるとエンジンのシャフト部分からの浸水ということであったが、この時点での浸水はたいしたことはなかった。

エンジンをニュートラルにし、メインのみの帆走に移り、もう一度チェックさせようとしたが、急に浸水がひどくなった。この時点でバッテリーが水につかり、放電するため、シャフト部分に手を入れることができなかった。我々はシャフト部分の浸水がひどくなったと思ったが、後に分かったことであるが、これは浸水による浮有物がフォックスルの手前であったスピードメーターのキャップのピンに当たり、ピンが抜けたためにキャップ全体がはずれたことによる急激な浸水であった。しかしすでに15cmほどの深さまで浸水していたために、この二次的な浸水に気がつかなかった。

とにかく排水するものと操船するものにクルーを振り分け、ただちにメラ港にもどるべく舵をとったが、浸水による船の重みで舵がきかず、船も不安定な状態になった。この時風は13mほどで波が大きく、猶予のない状態であった。その時丁度、モーターボートが通ったので、ホグホーンで合図し、近くの港まで曳航を頼み、もやいをとった。その時点での浸水は40cm以上で、非常に不安定な状況であった。私はもう一度、小菅にエンジンルームにもどり、バッテリーをはずし、シャフト部分をチェックするように命じたが、その結果たいした浸水がないのに気付く、他の考えられる浸水箇所(ギャレージヘッド)などをチェックした結果、スピードメーターのキャップがはずれていたことに気付いた。

この間、最初に気付いた時点から、30~40分ぐらい

たっていたと思われる。すぐにキャップをして排水をし、船を安定させた。モーターボートはそのまま館山港まで曳航してくれた。モーターボートはアマチュア無線を通じて海上保安庁に連絡を入れたらしく、港内に入港後、30分ぐらいしてから巡視船が入港してきたので状況を説明した。

けが人及び艇の損傷はなし。

全体的に振り返ってみると、最初の浸水箇所に気がとられすぎ、偶発的に起きた二次的浸水に気がつくのが遅れたが、当時は波、風ともに強く、あと10分ほど浸水箇所の発見が遅ければ艇を放棄しなければならない状態であった。

しかし、クルーたちが冷静に行動してくれたおかげで事なきを得た。諸磯フリート、日本外洋帆走協会の皆様や、ニュースをお聞きになった方々には多大な御心配をおかけいたしました。また曳航していただいたコマンダーエイトの鈴木氏の海の仲間としての多大な御協力に深謝いたします。(石渡記)

海外レース・インフォメーション

1983 SORC

☆レース日程

- 1983年2月5日 セントピーターズバーグーボッカ
グランデ 138マイル
2月8日 セントピーターズバーグーフォ
ートローデルダール 370マイル
2月13日 リプトン カップ 37~43マイル
2月19日 オーシャン トライアングル
135マイルと150マイル
2月22日 マイアミ ナッソー、コースA・
172マイル、コースZ・189マイル
2月25日 ナッソーカップ 25~27マイル

☆資格 IOR 24.0フィート~27.0フィート

ORC スペシャルレギュレーション・カテゴリー
リー"2"その他

☆エントリーフィー \$250ドル

☆エントリークローズ 1983年1月30日(日)1800まで
☆連絡先

St. Petersburg

Bruce W. Watters, Jr.

224 Beach Drive NE St. Petersburg, FL 33701

TEL 813-896-6661または823-0312

Ft. Lauderdale

Richard L. Powers

1648 S.E. 13th Street Ft. Lauderdale, FL

33316

TEL 305-522-6949

第27回神子元島レース成績表

10月30日(土)1100スタート

クラス 順位	セール 番号	艇 名	TYPE	神子元島 回航	フィニッシュ タイム	着順	所要時間	T F	修正時間	総合 順位	
I-1	2112	FUJI III	FRE46	16:49	2:31'08"	1	15:31'08"	0.8575	13:18'27"	21	
III-1	380	THETIS III	U38	17:10	3:52'39"	14	16:52'39"	0.7863	13:16'14"	19	
	2035	CLARISSA	DOU37	18:04				0.7806		DSQ	
	2	2751	BELLATRIX II	HAYA34	17:20	4:32'51"	19	17:32'51"	0.8031	14:05'33"	27
IV	1850	VEGA	DOU33	17:30				0.7479		DSQ	
	10	1900	龍飛 III	DOU33	17:30	4:12'13"	16	17:12'13"	0.7448	12:48'48"	16
	13	1985	波勝	SK32	17:35	4:56'37"	21	17:56'37"	0.7600	13:38'14"	25
	4	2212	衣笠	WAT32	17:20	3:22'46"	8	16:22'46"	0.7540	12:21'00"	7
	3	2220	慎記郎	HOL33	17:05	2:55'05"	4	15:55'05"	0.7640	12:09'41"	5
	7	2640	青海波	KIH33	17:20	3:24'37"	10	16:24'37"	0.7580	12:26'20"	11
	14	2668	PARAPHRENIAN 6号	DOU34	17:40	5:20'50"	24	18:20'50"	0.7620	13:58'50"	26
	11	2690	黒潮(くろしお)	NAK33	17:30	4:12'44"	17	17:12'44"	0.7530	12:57'39"	17
	15	2713	CAVOK II	CRA34	17:31	5:46'04"	27	18:46'04"	0.7530	14:07'56"	28
	12	2853	TOPLINR	KAN30	17:27	4:49'58"	20	17:49'58"	0.7458	13:17'59"	20
	8	2857	白鯨(はくげい)	IKE34	17:40	3:23'39"	9	16:23'39"	0.7600	12:27'34"	12
	1	2862	おおみずなぎどり	U32	17:10	2:44'54"	2	15:44'54"	0.7670	12:04'44"	3
	6	2905	JACK TAR II	TAK34	17:05	3:10'53"	6	16:10'53"	0.7670	12:24'40"	10
	9	3006	BORN FREE III	NAK34	17:10	3:27'43"	11	16:27'43"	0.7580	12:28'41"	13
	5	3050	BLUE NOTE	ITO30	17:10	3:13'57"	7	16:13'57"	0.7640	12:24'06"	8
	16	3083	SONNBLUME	VEN30	17:45	7:04'37"	29	20:04'37"	0.7489	15:02'08"	29
	2	3093	FORTY	YAN34	17:05	2:55'11"	5	15:55'11"	0.7590	12:04'59"	4
V-7	1910	SERABI III	DOU30	17:55	5:30'47"	25	18:30'47"	0.7290	13:29'46"	23	
	3	1992	DOLLY I	ELV32	17:25	3:45'24"	13	16:45'24"	0.7269	12:10'50"	6
	2	2011	がめら	TAK30	17:20	3:29'15"	12	16:29'15"	0.7301	12:02'15"	2
	4	2466	MELRUZA V	NAK295	17:40	4:26'07"	18	17:26'07"	0.7290	12:24'37"	9
	1	2600	KARASU V	TAK30	17:15	2:54'10"	3	15:54'10"	0.7312	11:37'41"	1
	6	2965	TSURUGI	NAK31	17:45	5:18'43"	23	18:18'43"	0.7269	13:18'39"	22
	5	2997	SUMMER KNOWS	TAK30	17:25	4:11'54"	15	17:11'54"	0.7354	12:38'52"	14
	8	3002	SYLPHIDES	NAK31	17:30	5:32'17"	26	18:32'17"	0.7301	13:32'05"	24
		3059	MAYU	U28			17:45ラダートラ ブル下田入港	0.7160		DNF	
VI-1	2260	RODEM V	T&P26	17:40	5:17'35"	22	18:17'35"	0.6936	12:41'17"	15	
	2	3015	MANBO V	NAK26	17:30	6:01'30"	28	19:01'30"	0.6901	13:07'45"	18

第5回関東支部フリート対抗チームレース成績表

10/30~11/21

帆走委員長 佐藤和夫

所 属 フリート	セール 番 号	艇 名	TYPE	T・C・F	第1レース (神子元島 レース)		第2レース (18マイル 三角)		第3レース (16マイル 三角)		第4レース (小網代カ ップ)		総 合 得 点	総合 順位	フリート 順 位
					順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点			
江 の 島	3006	BORN FREE II	NAK34	0.7580	13	27	7	24	③	28	21	15	94	9	(346½)
	3050	BLUE NOTE	ITO34	0.7640	8	34½	9	22	17	14	5	39	109½	7	①
	3093	FOTY	YAM34	0.7590	4	40½	①	30½	①	30½	③	42	143	①	
葉 山	1910	SERABI III	DOU30	0.7290	22	13½	26	5	16	15	24	10½	44	25	(132½)
	1713	CAVOK II	GRA34	0.7530	26	7½	19	12	26	5	16	22½	47	24	9
	2853	TOPLINER	KAN30	0.7458	19	18	21	10	19	12	DNS	1½	41½	27	
小 網 代	380	THETIS III	U-38	0.7863	18	19½	18	13	DNF	1	19	18	51½	22	(130)
	1985	波 勝	SK32	0.7458	24	10½	25	6	25	6	DNS	1½	24	29	10
	2690	黒 潮 III	NAK33	0.7530	17	21	22	9	14	17	26	7½	54½	19	
シーボニア A	2011	がめら	TAK31	0.7301	②	43½	12	19	15	16	①	45¾	123¾	4	(270¾)
	3002	SYLPHIDES III	NAK31	0.7301	23	12	11	20	8	23	13	27	82	13	③
	3059	MAYU	U-28	0.7160	DNF	1½	DNS	1	6	25	6	37½	65	18	
シーボニア B	1992	DOLLY I	ELV32	0.7269	6	37½	14	17	11	20	DNS	1½	76	16	(169½)
	2668	PARAPHRENIAN VI	DOU34	0.7620	25	9	10	21	24	7	22	13½	50½	23	8
	3083	SONNBLUME	VEN30	0.7489	27	6	28	3	9	22	23	12	43	26	
油 壺 A	1850	VEGA V	DOU33	0.7479	DSQ	0	DNS	1	DNS	1	/	/	2	30	(239)
	2220	慎記郎	HOL33	0.7640	5	39	6	25	4	27	12	28½	119½	6	6
	2260	RODEM V	T&P26	0.6936	15	24	20	11	7	24	8	34½	93½	10	
	2000	月 光 V	FRE41	0.8212	予備艇		予備艇		予備艇		15	24	24	29	
油 壺 B	2212	衣 笠	WAT32	0.7540	7	36	5	26	23	8	17	21	91	11	(242½)
	2640	青海波	KIH33	0.7580	11	30	17	14	21	10	20	16½	70½	17	5
	3001	EMILY III	YOK31	0.7343	DNS	1½	13	18	13	18	②	43½	81	14	
油 壺 C	1900	龍 飛 III	DOU33	0.7448	16	22½	16	15	18	13	DNS	1½	52	21	(210½)
	2112	FUJI III	FRE46	0.8575	20	16½	27	4	27	4	25	9	33½	28	7
	2857	白 鯨 III	IKE34	0.7600	12	28½	4	27	②	29	4	40½	125	③	
油 壺 D	2600	KARASU V	TAK30	0.7312	①	45¾	8	23	10	21	9	33	122¾	5	(301¾)
	2905	JACK TAR II	TAK34	0.7670	10	31½	③	28	28	3	7	36	98½	8	②
	2997	SUMMER KNOWS	TAK30	0.7354	14	25½	15	16	22	9	11	30	80½	15	
諸 磯	2466	MELRUZA III	NAK295	0.7290	9	33	23	8	12	19	14	25½	85½	12	(266½)
	2862	おのみずなぎとり	U-32	0.7670	③	42	②	29	5	26	10	31½	128½	②	4
	2965	TSURUGI	NAK32	0.7269	21	15	24	7	20	11	18	19½	52½	20	

注……第3レースコース短縮15マイル→10マイル

※第3レースJACKTAR II 5%ペナルティー



車イスの人魚 “フィアーナ”が海に還る日⑦

インド編

石井浩一・フィアーナ

驚異の建築物として世界に知られ、優美で夢的な美しさにかけては世界一といわれる、あの壮麗なタジマハール……。暗闇の中のタジ、朝日や夕日に染まったタジ、真夜中に月光に照らし出された神秘的なタジ、時間の経過とともに千変万化する様を楽しみ、まさにそれらは海底の神秘性にも勝るとも劣らぬものであります。フィアーナの夢であったタジマハールとの対面も無事終わり、インドの首都デリーに向かったのです。

デリーは政治と文化の中心地で、歴史的な建造物や公園の多い美しい町で、しかも市内に工場が全くないために、空気は澄みきっていて爽快な感じのするところであります。道路は整備されていて、車イスを押してまわるには好都合のところでした。

デリー空港に着いて、市内行きのバスを待っていたのですが、なかなか来ません。(時刻表など全くあてにできないのです) 待ちくたびれた上に、荷物も多かったので、タクシーで行くことに決めました。痛い出費ではありますが仕方ありません。しかし、ここでやっかいなことが一つでできました。それは値段の交渉であります。当然のことのように外国の旅行者には、べら棒な値を吹っかけてきます。ところが我々は、貧乏旅人、そうはさせじと攻防戦が始まるのが常でした。「市内のホテルまでいくらで行ってくれる?」「80ルピー」と返ってきました。アホかいな! こりや相当なめられているな……。 「じゃあ他のにする」と、とここフィアーナを押しながら歩き始めるのです。

フィアーナも心得たもので、他のドライバー達に愛想を振りまき始めます。すると、最初に声をかけたドライバーが「おーい、50ルピーでどうか?」と背後から声をかけてきました。心の中でニヤッと笑いながらも無視し続けると、40ルピーになり、「もうちょい」と心に念じながら待っていると、別のドライバーから「うちは35ルピーでいい。いい条件だと思わないか?」と声がかかります。しめた! ここまでくれば後は高見の見物としゃれこむのです。

それは、ドライバー同志で値のたたき合いを始めるからなのです。規定料金などないに等しいようなもので、多くの場合マインドゲームが始まるのです。これも、この国の一つの姿であると割り切って、かえってそういうものをエンジョイしてしまいました。

例を挙げるときりがありませんが、ライ病にかかっ

ている人達や、路上生活者達に追いかけてまわされたり、ある時は石を投げられたりして、不愉快な思いや、腹を立てたりもしました。それとは逆に、ある小さな村で泥をかためて作った家に招かれ、お客様用にと、庭に掘った穴から(冷蔵庫代りに使っている)泥にまみれたチャパティ(彼らにとって貴重な食料)を御馳走してもらったこともありました。今でも、感激して目頭が熱くなったのを覚えています。このことも前述したことも、それぞれに我々の目の前に映し出された偽りのないインドの姿なのです。人それぞれに経験することが違い、当然そこからとらえるインド像も異なります。

ニューデリーは、今まで見慣れてきたものとは全く異質の近代化された美しい都市でありましたが、我々の求めていたインド像とはいささかかけ離れたものでした。将来はハワイやタヒチ等のように、観光化が進み、町並が近代化されていくことは容易に想像できますし、それによって彼らの生活が向上し、豊かになっていくかもしれません。しかしその反面、俗化された町並や観光用の顔や考えを持った人達が町中にあふれるようになる恐れもあります。我々はファンタスティックカントリー・インドを多くの人達に知ってもらいたい、見てもらいたい、と思う反面そのことによって彼らの本来の姿が変わっていくのは見るに忍びない。やはり、旅して歩き回るのに不便な所は、それゆえにそれが魅力となるのではないのでしょうか?



路上生活者達

話はデリー空港にもどりますが、良心的な値段を示すタクシーを探すのに骨を折っている最中に、一人の童顔の男が近寄ってきて「市内のホテルまで責任をもって連れてゆく。ホテルが決まっていなきゃ俺が紹介するよ。一切合切で30ルピーでどうだね?」「よっしゃ決めたよ」と言うが早いか、彼はあっという間に我々の荷物をトランクに積み込んだのです。彼には相棒がいて、彼は交渉係で運転手は別の人だったのです。この運転手は少しヤクザっぽい雰囲気、気がゆるせないという感じでした。我々の気が変わらないうちに、と思ったのか、せかさされ、慌ただしく車に乗り込み市内に向かいました。

それと同時に、カルカッタの空港の時以来忘れかけていたインド版カミカゼドライブが始まったのです。中央線などあってないようなもの。これが日本だと、即15点の免許取り消しなのに……。僕はフィアーナの体をサポートするのに心死で、腹を立てるのも忘れていました。道路を横断している人達も、減速もせずクラクションを鳴らして突っ走るのは恐れ入ります。今までも何回となくタクシーに乗りましたが、彼等はこんなにひどくありません。やはり、当たりはずれがあるのかもしれませんが。僕がよく利用した人力車も同じことがいえます。一度は、人力車に乗っていて引き手がスピードを出し過ぎ、カーブを曲り切れず、人力車もろとも歩道に放り投げられたことがあります。それでも凝りずにちょくちょく利用しました。タクシーよりも断然乗りごちがよく、値段も手頃で、なによりこのスピードのムードがインドのイメージに

ピッタシなのです。

さて、あれだけとぼしていたドライバーが、途中一回だけ急停車し、しばらく動かなくなった時がありました。というのは、道路を牛が塞いでいて(道路の真中にふんぞり返っている)、クラクションを鳴らしても牛の耳に念仏、知らん顔を決めこんでいるのです。彼らは、牛でもひき殺そうものならえらい目に遭うらしい。あの無茶苦茶な運転をしていたヤクザドライバーの、牛の前で初めて見せた慎重さに、この国のお国柄を見せられたような気がしました。

結局、他の人が牛を移動させる間中、彼は車の中でのんびりと待っていたのです。彼等が連れていってくれたホテルは超高級ホテルでした。我々の服装といえば、あちこち穴のあいたボロGパンにTシャツ、ビーチサンダルにボサボサ頭で、こういう所にはマッチしないのです。三流か四流ホテルで十分と税得しても、超高級から高級、中級へと順を追いつつもハイクラスのほうを好んで連れていくのです。バックマージンがあるから無理もないが、我々には迷惑なことでした。「もっと宿泊費の安いところに連れていってくれ。さもないと車を降りる。金も払わん」と威して、やっとお互いに折り合えるところに連れていってくれました。

セコい話ではありますが、我々にとって限られた範囲の中でマネージメントしなければならぬのが宿命みたいなものですから、ケチれるところ(部分)はケチってやれという気持でした。カルカッタでのフィアーナの入院費用が予想外の出費だったのでなおさらでした。

第5回 琵琶湖シリーズ・ポイントレース成績表

9月19日

レース委員長 眞田恒男

クラス	SAIL No.	艇名	艇種	T.C.F	第 1 回 戦				第 2 回 戦				得点	順位			
					順	所要時間	修正時間	修正順	点	順	所要時間	修正時間			修正順	点	
I	2300	YOU V	NAK 33	.7610	1	1:49:18	4.991	1	2 1/2	1	1:29:12	4.073	1	2 1/2	4 1/2	1	
	2377	SUEKO	NAK 33	.7620	2	1:50:07	5.035	2	1	2	1:33:14	4.263	2	1	2	2	
II	3017	ALL HANDS II	VD 30	.7343	6	1:42:30	4.516	6	7	9	1:29:35	3.947	10	3	10	7	
	1793	TINKLE TICK	GS 30	.7258	3	1:40:15	4.366	3	10	10	1:30:14	3.929	9	4	14	3	
	2992	ひよっこ 3	TAK 31	.7343						1	4	1:21:39	3.597	4	9	10	7
	3090	HAYATE IV	J 24	.7343	2	1:37:28	4.294	2	11	5	1:24:38	3.729	5	8	19	2	
	2022	めるへん	N 300	.7258						1	6	1:25:57	3.743	6	7	8	10
	2064	風小僧	DOU 30	.7258						1	7	1:26:03	3.747	7	6	7	12
	2077	FLEUR BLEUE-Z	TAK 31	.7290						1	1	1:19:17	3.468	1	12 1/2	13 1/2	5
	2449	PELL MELL	NAK 295	.7312	4	1:40:24	4.405	4	9	8	1:28:15	3.872	8	5	14	3	
	2484	飛龍	NAK 295	.7322	5	1:40:33	4.417	5	8	12	1:34:53	4.168	12	1	9	9	
	2744	流星	NIC 30	.7333	7	1:48:03	4.754	7	6	11	1:30:54	3.999	11	2	8	10	
	3051	ベネロープ II	DOB 30	.7343	1	1:33:31	4.120	1	12 1/2	3	1:20:58	3.567	3	10	22 1/2	1	
	3126	レスポワール 22.5f	YOK 30	.7343						1	2	1:19:24	3.498	2	11	13	6
III	2847	ストロベリー	YAM26S	.6878	1	1:58:51	4.905	1	2 1/2	1	1:30:10	3.721	1	2 1/2	4 1/2	1	
	2670	SCOOT		.6662					1	2	1:36:44	3.867	2	1	2	2	



玄海
だより

玄海支部広報 片倉静江

「もっと大志を抱こう！」

「東風吹かば、想いおこせよ飛梅号
あるじなして、小戸を忘るな」

〈飛梅〉の総合優勝ニュースに沸きたった小戸ヨットハーバーもやっとその興奮からさめ、オーナー達の中には、次回を狙ってメーカーやデザイナーにコンタクトをつけている人達もいるとか……。次は誰が栄冠を？(何せ優秀なクルーが、まだゴロゴロしている小戸ですもの。AGREE? Mr. SAITA? ただ、色男金と暇はなかりけりましてねえ……)。

しかし、5ミリのホローとか、3ミリのパンプだの、センチの間違ひではないかと、BW派は老眼鏡を拭き直したほどで、パンプもホローも、やたらに目立ちはじめ、その対策に四苦八苦している中年女性には、一寸耳痛いお話だった。それにしてもかわいそうな飛梅嬢、戦いすんで日が暮れて、気の故かもしれないが、何かしら彼女が苛められているような気がしてならない。世界に冠たる日本外洋帆走協会のお墨付きを持っていたのに……。また、オープン参加だと思っていたが、いつのまにかナショナルチームに入って(入らされて?)いるようで、ナショナルチーム艇へ支給される助成金とやらも、規則通り貰ったのだろうか? 週末、愛艇に会えないと、次の一週間ゴキゲンが悪くなるほどヨットをかわいがっている人からみれば、飛梅嬢がどんな気持で再計測場へ向かったのだろうか、思っただけで胸がいっぱいになる。無実の罪で刑場へ引かれていくような……。

〈飛梅〉がハワイを目指して走っているころ、鳥羽パールレース出場の〈ジグザグ〉と〈マリエ〉は、大雨の豊後水道をすり抜け、土佐沖でのサーフィングを楽しんでいた。一度でいいから大波でのサーフィングを……と夢みていた博多の「ミス、井の中の蛙」は、太平洋側ではさざ波に入る波高6メートルの波乗りには御満悦、

ウオッチオフになってもラットを離さなかった。漬物がくさるほど海の歌を歌いまくり、愛媛県生まれのダイスト、高橋新吉氏の詩も、詩吟風にうなってみた。

「留守と言え。ここには誰も居らぬと言え。」

5億年たったら帰って来る」

最近150億円の遺産を受けとった人がいたが、3億円を銀行から騙し取った事件等、億という金額には驚かなくなったが、年月日になるとやはり気が遠くなる数字だ。3年のヨットローンでさえ、なんて長いローンよと、嘆いている人には尚更のこと。5億年? これに似た内容で、NHKのTV番組「今週の歌」シリーズにも面白い歌があった。かすれ声の尾藤イササが歌う「サラマンダラ」。火中に住むといわれた神話中の火とかけ「サラマンダー」だと思いが、あらゆる生物が消滅し、燃えつづける地球に残った一人の人間が竜になった……とも解釈出来る。その竜の淋しさを、コミカルな内容に収めた、何となく物悲しいメロディーがいい。さわりの部分を拾いあげると、

「最後の夢から1万年、仲間もいないおどけ者、
夜空を仰いでただひとり、こぼれるものぐちひとつ
牙もなくした おかしな竜、(英知もなくした?)

誰か来て彼と話しておくれ

サラマンダラ、サラマンダラ、幻の竜」

広い海原を帆走中この歌を口ずさんでいると、フト別の星から、青い地球ならぬ燃えさかる地球を眺めているような錯覚をおこす。夢は果てしなく広がり、いつの日か〇〇フィートを建造させて世界一周をと、カラコルム号の限りなくおかしなオーナーは、セールナンバー「K2 8611」を外すのに忙しそうだった。現地人ポーター数百人を含め1人の犠牲者も出なかった、

「ト、ヒウメ。帰そ、らっしやい。
飲みよし、ういよ、い。」



(ミス バンプ・ホロー)

イラスト：片倉静江

77年K2 峰登山隊に因んでつけていた縁起もののナンバーだったが、今年のチョゴリ峰（K2 峰の中国名、8611メートル）遠征で仏様が出たためおろすことにしたとか。

小原庄助さんピッタシの正規登録番号2647（フロはヨイナ）も到着、準備万端完了。（飛梅）フィーバーは終わった。玄界灘は呼んでいる、ホーン岬も待つて

いる。来年も今年以上に外洋へ出よう、国際レースにも参加しよう。そして英会話も勉強しよう。ロンドンの乞食でさえ英語を話すそうだ。別にそれでメシを食うわけではないんだから、お互に理解出来る程度でもよい。さあ、来年は LET'S STUDY 英会話も！

日本の新しい浮標式について

海上保安庁からの連絡によれば、次のとおり浮標式が世界的に統一されることになりました。とりあえずその概略をお知らせ致します。

1. 日本における新標式への変更のスケジュール

新しい浮標式への変更は、東京湾を昭和58年度にスタートし、以後、伊勢湾、瀬戸内海など各海域ごとに毎年度継続して実施される予定です。

当該海域における変更の具体的な時間的スケジュールは、その実施に先立って事前に海域ごとに周知されます。

なお、沈船ブイは、昭和58年7月から全国一斉に新しい種別の方位標識または側面標識に変わる予定です。
2. 新しい浮標式制定の経緯

今まで世界各国において30種類以上の異なる浮標式が使用されていました。

このような好ましくない状況を改善し、浮標式の世界的統一を図るため、各国航路標識機関によって過去半世紀以上にわたって努力されてきましたが、種々の事情があつて成功に至りませんでした。

昭和55年11月、IALA(国際航路標識協会)が、IMCO(政府間海事協議機関)、IHO(国際水路機関)などの協賛により東京で開催した浮標特別会議において、「浮

標式の世界的統一を確立するための決議」が採択され、IALA浮標式が参加各国によって承認され、新しい浮標式が我が国にも導入されることになりました。

3. 世界の浮標式の種類

(1) 浮標式が世界的に統一されることになりましたが、統一されなかったことが一つあります。

それは側面標識の塗色と光の色で、我が国では、左げん標識は緑、右げん標識は赤となるように変更されていきますが、逆に、左げん標識は赤、右げん標識は緑とする国々もあります。

(2) 「左げん側を赤」、「右げん側を緑」とする国々をA地域と呼び、ヨーロッパ、アフリカ、中近東、大洋州及びアジアの一部はこの地域に属します。

(3) 一方、「左げん側を緑」、「右げん側を赤」とする国々をB地域と呼び、南北アメリカ、それにアジアでは日本、韓国、フィリピンがこの地域に属します。

(4) 国によっては、航路標識の種別のうち、一部を使用しないこともあります。例えば現在、イギリス、フランスでは分岐点標識を使わず、またカナダでは孤立障害標識は使わないが、「Bifurcation」という名称で分岐点標識を使うなど、国により浮標式の取り入れ方に若干の差があります。

(5)

地域名	標識の種類		塗 色		光の色	主 な 適 用 国
			頭標	標体		
A	側面	左げん標識	赤	赤	赤	ノルウェー、ソ連、フランス、イタリア、スペイン、オーストラリア、インド、ビルマ、マレーシア、東ドイツ、西ドイツ、オランダ、イギリス、シンガポール、香港、等が予想されている。
		右げん標識	緑	緑		
B	標識	左げん標識	緑	緑	緑	アルゼンチン、ペルー、キューバ、アメリカ、カナダ、日本、ブラジル、韓国、フィリピン、等が予想されている。
		右げん標識	赤	赤		

新しい浮標式

種別	標体		頭標		図解				灯質	
	塗色	形状	塗色	形状	灯浮標	浮標	灯標	立標	光の色	光り方
側面標識	左げん標	緑 やぐら形 円筒形 又は円柱形	緑	円筒形					緑	閃光 群閃光 (例)2閃光 モールス符号光 (例)A
	右げん標	赤 やぐら形 円すい形 又は円柱形	赤	円すい形					赤	超急閃光 (例)断続 又は急閃光 (例)連続
	左げん 航路優先	赤地に 緑横帯 1本	やぐら形 円すい形 又は円柱形	赤	円すい形				赤	複合群閃光毎7秒に2閃光と1閃光
	右げん 航路優先	緑地に 赤横帯 1本	やぐら形 円筒形 又は円柱形	緑	円筒形				緑	
方位標識	北方位標	上部黒 下部黄	やぐら形 又は円柱形	黒	円すい形 2個縦掲 (頂点上向)				白	連続超急閃光 又は連続急閃光
	東方位標	黒地に 黄横帯 1本	やぐら形 又は円柱形	黒	円すい形 2個縦掲 (底面对向)				白	群超急閃光毎5秒に3閃光 又は群急閃光毎10秒に3閃光
	南方位標	上部黄 下部黒	やぐら形 又は円柱形	黒	円すい形 2個縦掲 (頂点下向)				白	群超急閃光毎10秒に6閃光と1長閃光 又は群急閃光毎15秒に6閃光と1長閃光
	西方位標	黄地に 黒横帯 1本	やぐら形 又は円柱形	黒	円すい形 2個縦掲 (頂点对向)				白	群超急閃光毎10秒に9閃光 又は群急閃光毎15秒に9閃光
孤立障害標識	黒地に 赤横帯 1本以上	やぐら形 又は円柱形	黒	球形 2個縦掲				白	群閃光毎5秒又は10秒に2閃光	
安全水域標識	赤白 縦しま	やぐら形	赤	球形				白	等明暗光 モールス符号光A 又は長閃光毎10秒に1閃光	
特殊標識	黄	やぐら形 円筒形 円すい形 又は円柱形	黄	X形				黄	閃光(長閃光毎10秒に1閃光を除く) 群閃光(2閃光と3閃光を除く) 又はモールス符号光(AとUを除く) (例)4閃光 (例)D	

- (注) 1.追加特殊標識について/上表に掲げるほか、例外的なものとして追加特殊標識があります
 2.灯質について/(1)超急閃光とは、1分間に100回又は120回の割合で光を連発するものをいいます。
 (2)急閃光とは、1分間に50回又は60回の割合で光を連発するものをいいます。
 (3)長閃光とは、閃光時間が2秒以上に及ぶものをいいます。

社団法人 日本水難救済会救難所（支所）所在地表

郵便番号	救難所	支所	所在地	電話番
812	箱崎		福岡市東区箱崎2-49-12 (箱崎漁協内)	092-651-4366
812	博多		福岡市博多区石城町14-3 (博多港運KK内)	092-281-7651
810	福岡		福岡市中央区港3-1-1 (漁協内)	092-741-2486
810	伊崎浦		福岡市中央区福浜1-3-13 (伊崎浦漁協内)	092-741-2970
814	姪浜		福岡市西区姪浜町3-35-6 (姪浜漁協内)	092-881-0025
819-01	浜崎		福岡市西区今津54-1 (浜崎漁協内)	09295-6-2121
819-02	唐泊		福岡市西区大字宮浦 (唐泊漁協内)	092-809-2311
819-02	西浦		福岡市西区大字西浦 (西浦漁協内)	092-809-2232
819-14	野北		糸島郡志摩町野北 (野北漁協内)	09202-7-0234
819-12	船越		糸島郡志摩町船越 (船越漁協内)	09202-8-2136
819-11	加布里		糸島郡前原町加布里 (加布里漁協内)	09202-2-2717
819-17	深江		糸島郡二丈町深江 (深江漁協内)	09202-5-0211
819-17	福吉		糸島郡二丈町福井5940-13 (福吉漁協内)	09202-6-5214
819-12	姫島		糸島郡志摩町姫島 (姫島漁協内)	09202-8-2940
814	能古		福岡市西区能古662 (能古漁協内)	092-881-0450
819-02	玄界島		福岡市西区大字玄界島21 (玄界島漁協内)	09295-9-2631
811-01	相島浦		粕屋郡新宮町相馬 (相島漁協内)	09296-2-2901
819-02	小呂島		福岡市西区大字小呂島 (小呂島漁協内)	09295-9-1714
811-37	大島		宗像郡大島村 (大島村役場内)	09407-2-2211
811-37	地島		宗像郡玄海町地島 (地島漁協内)	09406-2-1172
	八幡		北九州市八幡区前田浜町妙見地先	
807-01	柏原		遠賀郡芦屋町芦屋1,070 (柏原漁協内)	093-23-0069
828	宇島		豊前市大字吉木955 (豊前市役所総務課内)	09798-5511
829-03	椎田		築上郡椎田町大字椎田819-2 (椎田町住民課内)	09305-6-0300
大分	大分			
879-22	佐賀		北海部郡佐賀関町西町 (佐賀関町漁協)	09757-5-0511
熊本	熊本			
869-01	長洲		玉名郡長洲町大字長洲3,336 (長洲漁協内)	長洲-8-0516
861-52	松尾		熊本市松尾町要江 (松尾漁協内)	
869-32	三角		宇土郡三角町大字波多213-2 (三角町役場内)	09645-3-1111
869-51	日奈久		八代市日奈久中町地先 (日奈久漁協内)	09668-2-2511
869-54	芦北		芦北郡芦北町大字芦北2,015 (芦北町役場内)	096682-2511
861-72	有明		天草郡有明町赤崎2,015 (有明町役場内)	09695-3-1111
863-22	二江		天草郡五和町大字御領2,943 (五和町役場)	096932-1111
863-25	富岡		天草郡苓北町苓北 (苓北町役場内)	
863-19	牛深		牛深市牛深町2,284-1 (牛深市役所総務課内)	09697-2-2519
863-18		久玉	牛深市久玉町343 (市役所支所内)	
863-15		深海	牛深市深海町1,834-2 (市役所支所内)	
863-14		二浦	牛深市二浦町4,406-1 (市役所支所内)	
863-17		魚貫	牛深市魚貫町1,541 (市役所支所内)	
長崎	長崎			
855	島原		島原市湊町263番地 (長崎地区海運組合 島原支部内) 芥孝夫様方	09576-2-5089
佐賀	佐賀			
849-16	竹崎		藤津郡太良町大浦竹崎港甲115 (北島勝義様方)	

救命器具等に取り付ける 反射テープの取り扱いについて

運輸省船舶局より下記のとおり通知があった旨、日本小型船舶検査機構から連絡があったので、お知らせします。

近年、夜間の遭難者救助のため膨脹式救命いかだまたは救命胴衣等の救命器具等に反射テープの取り付けの要望が強くなっている。また、国際的にもIMOにおいて検討が進められ、1974年SOLAS条約第三章救命設備の改正(案)では救命器具等への反射テープの取り付けが義務付けられる予定となっている。

しかしながら、救命器具等に適用される現行の規則等には、別表のとおり救命器具等の色に関し「非常に見やすい色」または「見やすい色」であるべき旨規定されており、反射テープの適正な取り付けが行われない場合、規定に適合しないものとなる恐れがあるため、任意に取り付けることのないよう指導してきたが、今般、救命器具等への反射テープの取り付けについて下記のとおり要件を定め、これに従って反射テープが取り付けられた場合は、これらの規定に適合するものとして取り扱うこととしたので業務上遺漏なきよう取り計らわれない。

(別表)

規則等の名称	条 項	色に関する規定
船舶救命設備規則	第5条第10号、第14条、第21条第1項第3号ホ、第23条第4号、第26条第1項第3号、第28条第1項第4号、第29条第1項第7号	非常に見やすい色
小型船舶安全規則	第46条第3号ニ、第49条第1項第4号、第51条第4号、第53条第1項第4号、第54条第4号	
船舶設備規程	第311条の20第1項第7号	見やすい色

1. 反射テープを取り付けることのできる救命器具等

- 救命艇
- 救命いかだ (小型船舶用を含む)
- 救命浮環 (小型船舶用を含む)
- 救命浮器 (小型船舶用を含む)
- 小型船舶用救命浮き輪
- 小型船舶用救命クッション
- 救命いかだ支援艇
- 端 艇
- 救命胴衣 (小型船舶用を含む)

作業用救命衣

2. 反射テープを取り付ける場合の要件

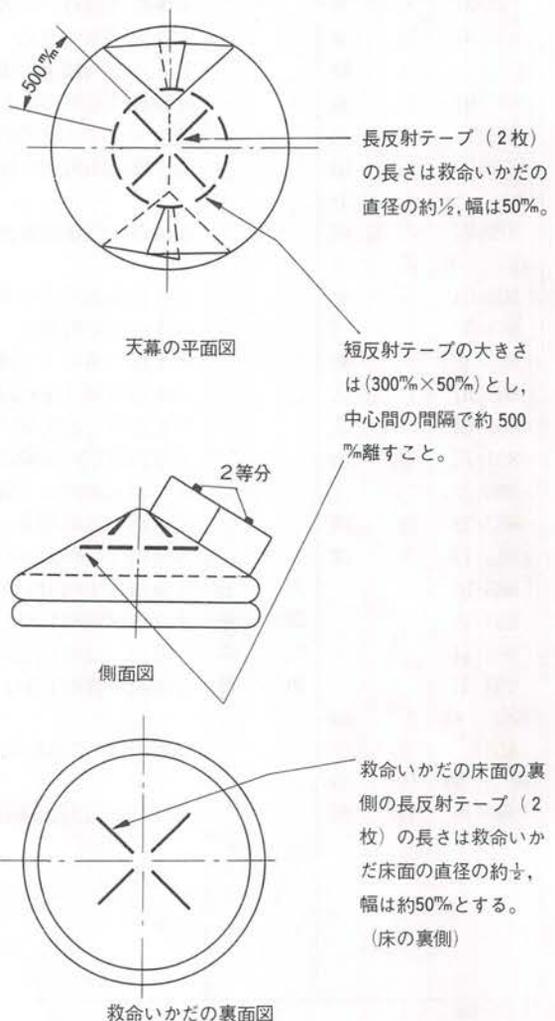
救命器具等に反射テープを取り付ける場合は、次の要件に適合しなければならない。

- a) 反射テープを取り付ける方法は、「3. 救命器具等の取り付け方法」に定めるところによる。
- b) 反射テープの反射特性等の諸性能は、「4. 反射テープの性能」に定めるところによる。

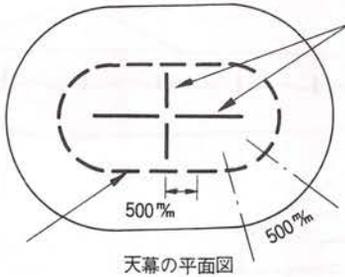
3. 反射テープの取付方法

反射テープを取り付ける方法は、次の方法を標準とする。

(1) 膨脹式救命いかだ (i) 円形救命いかだ



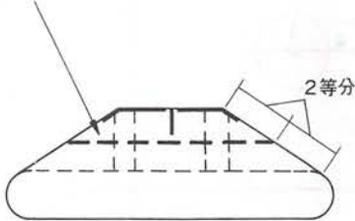
(ii) 楕円形救命いかだ



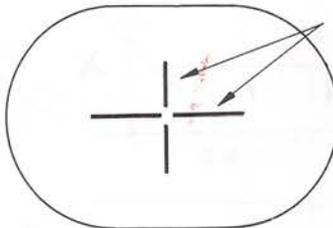
天幕の平面図

天幕の周辺に反射テープ(300%×50%)を中心間の間隔約500%になるように貼り付ける。

長反射テープの長さは救命いかだの楕円形の長径及び短径の各々、幅は50%とする。



側面図

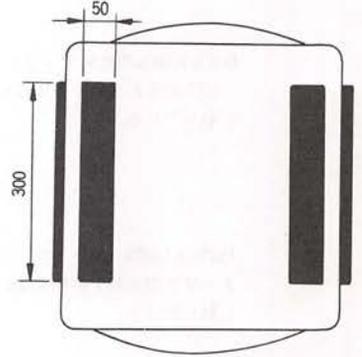


救命いかだの裏面図

救命いかだの床の裏面に貼る長反射テープの長さは床の楕円形の長径及び短径の各々とし幅は約50%とする。

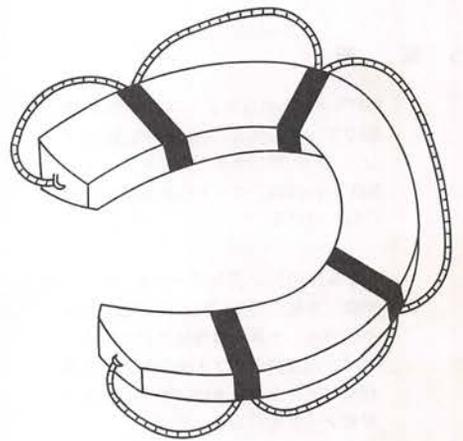
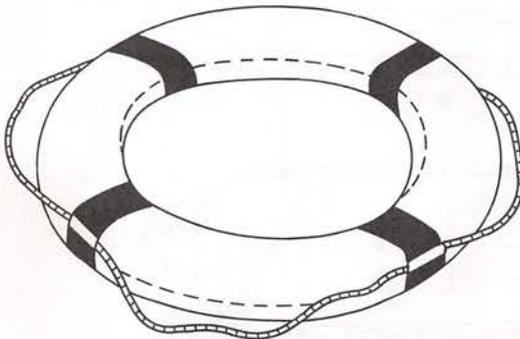
(3) 小型船舶用救命クッション

反射テープ(300%×50%)を頂面、底面及び側面のうちとつてのない側に図のように貼り付ける。



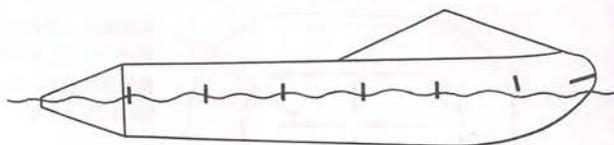
(2) 救命浮環等

幅が50%の反射テープを浮環の周囲にぐるっと巻きつけるかまたは図のように等間隔で4カ所貼り付ける。



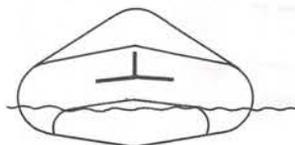
(4) 救命いかだ支援艇

150%×50%の反射テープを50%の間隔でボートの外側の喫水線の上の適切な位置に貼り付ける。



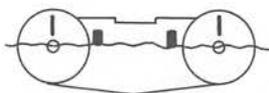
側面図

600%×50%の反射テープと150%×50%の反射テープを矢じりの形に貼り付ける。



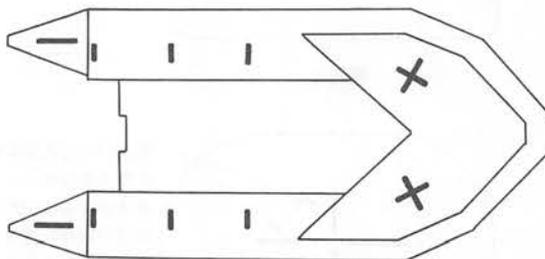
船首図

150%×100% (幅が2倍)の反射テープを喫水線上の船尾梁に垂直に貼り付ける。



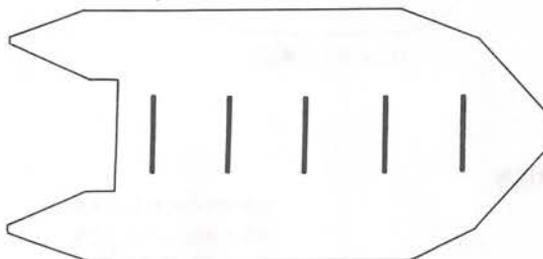
船尾図

150%×50%の反射テープを50%の間隔で各フロートを横切って貼り付ける。また、300%×50%の反射テープを各フロートの後部に1枚ずつ貼り付ける。300%×50%の反射テープを船首の天幕の左右、両舷に十字形にして貼り付ける。



平面図

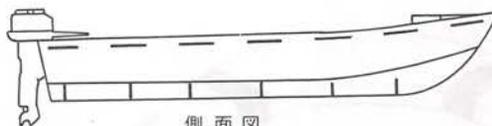
300%×50%の反射テープを50%の間隔でボートの底の竜骨の各舷側に貼り付ける。



底面図

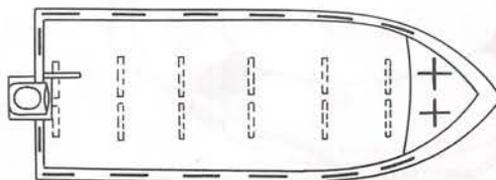
(5) 端艇

300%×50%の反射テープを50%の間隔でボートの外側の船舷の下に貼り付ける。また、同じサイズの反射テープを50%の間隔でボートの底面にも二列に貼り付ける。



側面図

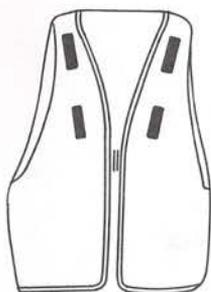
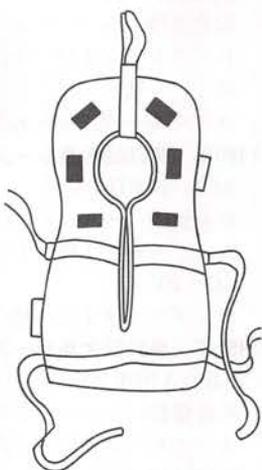
300%×50%の反射テープを50%の間隔で船舷の頂部に貼り付ける。天幕や張り出しがある場合はその上に同じサイズの反射テープを十字形にして数枚貼り付ける。(点線はボートの底の反射テープを示している。)



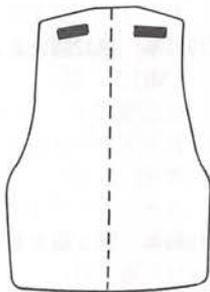
平面図

(6) 救命胴衣等

100%×50%の反射テープを6カ所できるだけ救命胴衣の上部に救命胴衣に書かれた文字が隠れないように貼り付ける。



前



後

4. 反射テープの性能

4.1 構造

反射テープは可撓性に富んだ帯状のもので原則として表面フィルム、球状レンズ及び反射層より構成され、可視光線を再帰性反射しうるものであること。

タイプ1：反射テープの裏面に接着層を設けこれを離型紙で保護したものであり、救命器具等に貼り付けて使用する。

タイプ2：布で裏打ちしてあり、救命器具等の布面に縫付けて使用する。

4.2 性能

(1) テープの反射性能は反射強さRがそれぞれ次の数値以上であること。

		観 測 値		
		0.2°	0.5°	2°
入 射 角	4°	150	57	2.5
	30°	75	33	2.0
	45°	50	25	1.0

反射性能とは、特定の入射角及び観測角で測定した反射強さで、次の式により表わさされる。

$$R = \frac{E_r \cdot d^2}{E_s \cdot A}$$

R：反射強さ

E_r：試験片からの反射光による受光器上の照度 (lx)

E_s：試験片位置における入射光による法線照度 (lx)

d：試験片と受光器間の距離 (m)

A：試験片の表面積 (m²)

観測角：光源から発した(入射光)と反射材により反射し受光器に入る光(反射光)とのなす角

入射角：反射材に照射した光と光が当たった点における反射材の法線とのなす角、ただし、反射光が入射光と法線の間にあるときの入射角を正、反射光が入射光と法線のなす角の外側にあるときの入射角を負にとる。

- (2) 適正な工作方法及び材料で作られたものであること。
- (3) 救命器具等の性能に悪影響を及ぼさないものであること。
- (4) 容易に取り付けることができ、かつ、剥がれにくいものであること。
- (5) 通常取り扱い及び環境条件のもとで、性能が低下しないものであること。
- (6) 油または油製品により影響を受けないものであること。
- (7) 見やすい色のものであること。



NORC協会ニュース

安全委員会より

安全委員長 児玉萬平

①ライフハーネス着用問題

再び起きた不幸な事故も、過去の教訓を本当には生かせぬまま見過されてきたことに起因する。確かにライフハーネスの着用率は年ごとに高くなってきているが、何時、どんな状況で装着させるか、またその命令の徹底はどのように行うかなど各々の艇長の適確な判断力を要求されている。"適当な基準を設けて艇長判断の一応の目安を決めようではないか"との意見もあるが、現状少なくとも艇長の判断力、とりわけ管理責任への再度の警鐘を鳴らし、艇長の強権において装着の徹底を計ることが急務であると考え。これに並行してレース運営の現場において、注意、検査等の実施を通じ、その実効を高めることを考えている。

②ライフラフトロッカー設置上の注意

今後コックピットフロア下にラフトロッカーを設置することは認められません。ただし、'82年度までに登録された艇まではその対象から除外します。(詳細次号)

③ウォッシュボードのロック機構について

コンパニオンウエーのハッチ、ウォッシュボードについてキャビン内外から開閉出来るロック機構が義務づけられていたが、有効な手段が見付からないため適用を除外してきた。ここへきてロック装置が製品化され、またラニヤードとクラムクリートで工夫すれば、比較的安価に自作できることもあり、来年'83年度より検査の対象とします。(詳細次号)

④無線装置の型式確認

安全検査項目に新たに以下の事項を追加致します。

1. 搭載無線機のメーカー名
2. 搭載無線機の型式名
3. 免許期日

これにはアマチュア無線機も含まれます。アマチュアの場合はコールサイン、運用周波数帯も記述して下さい。

1982年 初島レース

〈DOLLY I〉

総合優勝……………オリンパスカップ

B - グループ1位…中戸杯

〈龍 飛〉

A - グループ1位…K7カップ

1980年 第30回大島レース

〈SUN BIRD V〉

総合優勝……………シルバーカップ

A - グループ1位…どんがめ杯

〈GO 20〉

B - グループ1位…横山杯

1981年 第31回大島レース

〈BIG APPLE〉

総合優勝……………シルバーカップ

A - グループ1位…どんがめ杯

〈KARASU〉

B - グループ1位…横山杯

1982年 第32回大島レース

〈EMILY III〉

総合優勝……………シルバーカップ

B - グループ1位…横山杯

〈摩利支天〉

A - グループ1位…どんがめ杯

1980年 第3回大島・神子元島レース

〈月光 VI〉

A - グループ1位…龍王杯

〈KARASU〉

B - グループ1位…天山杯

1981年 第4回大島・神子元島レース

〈BIG APPLE〉

A - グループ1位…龍王杯

〈DOLLY I〉

B - グループ1位…天山杯

1982年 第5回大島・神子元島レース

〈慎記郎〉

A - グループ1位…龍王杯

〈SYLPHIDES III〉

B - グループ1位…天山杯

1980年 第7回江ノ島・清水レース

〈TRACER〉

総合優勝……………駿河湾支部長杯、舵杯

〈月光 VI〉

I ~ III 1位…静岡県知事杯

〈青海波〉

IV 1位…清水市長杯

〈GO 21〉

V 1位…藤沢市長杯

1982年 第9回江ノ島・清水レース

〈衣笠〉

総合優勝……………駿河湾支部長杯

お知らせ

1982年 NORC主催

X' マスディナーパーティー

(社)日本外洋帆走協会会長 石原慎太郎

日時 昭和57年12月20日(月) 1830~

場所 東京ヒルトンホテル 竹の間

内容 1830~1900 後期表彰式(三宅、神子元島、小網代の各レース)

1900~1930 1980年以降入賞艇レプリカ授与式

1980年 初島レース

〈SUN BIRD V〉

総合優勝……………オリンパスカップ

A - グループ1位…K7カップ

〈DOLLY I〉

B - グループ1位…中戸杯

1981年 初島レース

〈DOLLY I〉

総合優勝……………オリンパスカップ

B - グループ1位…中戸杯

〈慎記郎〉

A - グループ1位…K7カップ

- IV 1位…清水市長杯
〈MARGE〉
I~III 1位…静岡県知事杯
〈KELONIA〉
V 1位…藤沢市長杯
〈TRACER〉
VI 1位…舵杯
- 1980年 第21回鳥羽パールレース**
〈BIG APPLE〉
ファーストホーム賞…秋田トロフィー
完全優勝……………裕明杯
総合優勝……………運輸大臣賞, シーラ杯, パールカップ, メールエスプリ杯
I~II 1位……………鳥羽市長杯
〈EPICUREAN II〉
III~IV 1位……………鳥羽市観光協会会長杯
〈翻車魚 IV〉
V~VI 1位……………パレリーナカップ
- 1981年 第22回鳥羽パールレース**
〈摩利支天〉
ファーストホーム賞…秋田トロフィー
〈RODEM V〉
総合優勝……………運輸大臣賞, シーラ杯, パールカップ, メールエスプリ杯
V~VI 1位……………パレリーナカップ, 鳥羽商船杯
〈KAZU〉
I~II 1位……………鳥羽市長杯
〈ARGO NAUT〉
III~IV 1位……………鳥羽市観光協会会長杯
- 1982年 第23回鳥羽パールレース**
〈VIND 7〉
ファーストホーム賞…秋田トロフィー
I~II 1位……………鳥羽市長杯, 鳥羽市観光協会会長杯
〈EMILY III〉
総合優勝……………運輸大臣賞, シーラ杯, パールカップ, メールエスプリ杯, 鳥羽商船杯, 神奈川県知事杯
V~VI 1位……………パレリーナカップ
〈CARINO VI〉
III~IV 1位……………三浦市長杯
- 1980年 第7回三宅島レース**
〈BB III〉
ファーストホーム賞…月光トロフィー
〈慎記郎〉
総合優勝……………さがみ杯
- 1981年 第8回三宅島レース**
〈SUN BIRD V〉
ファーストホーム賞…月光トロフィー
〈BIG APPLE〉
総合優勝……………さがみ杯
- 1982年 第9回三宅島レース**
〈ROCINANTE〉
ファーストホーム賞…月光トロフィー
総合優勝……………さがみ杯
- 1980年 第13回八丈島レース**
〈RODEM VI〉
ファーストホーム賞…サンパードトロフィー
〈AZUSA〉
総合優勝……………関谷杯
IV~V 1位……………シレナ杯
〈月光 VI〉
I~III 1位……………山口杯
- 1980年 第7回大島・初島レース**
〈HONEY BEE〉
I~IV 1位…初島杯
〈翻車魚 IV〉
V~VI 1位…舵杯
- 1981年 第8回大島・初島レース**
〈BIG APPLE〉
I~IV 1位…初島杯
〈RODEM V〉
V~VI 1位…舵杯
- 1980年 第25回神子元島レース**
〈BIG APPLE〉
ファーストホーム賞…暖流杯
〈RODEM V〉
総合優勝……………神子元島杯, NORC神子元島トロフィー
V~VI 1位……………ジューイカップ
〈青海波〉
I~IV 1位……………インデペンデンスカップ
- 1981年 第26回神子元島レース**
〈摩利支天〉
ファーストホーム賞…暖流杯
〈RODEM V〉
総合優勝……………神子元島杯, NORC神子元島トロフィー
V~VI 1位……………ジューイカップ
〈白鯨 III〉
I~IV 1位……………インデペンデンスカップ
- 1982年 第27回神子元島レース**
〈FUJI III〉
ファーストホーム賞…暖流杯
〈KARASU〉
総合優勝……………神子元島杯, NORC神子元島トロフィー
V~VI 1位……………ジューイカップ
〈おおみずなぎどり〉
I~IV 1位……………インデペンデンスカップ
- 1980年 第5回沖縄・東京レース**
〈SUN BIRD V〉

ファーストホーム賞…コンテッサトロフィー
 〈SIND BAD II〉
 総合優勝……………総理大臣杯, 運輸大臣杯,

NORC会長杯, 沖縄タイムズ社杯, 朝日新聞社杯, ベストナビゲーター杯

IV~V 1位……………アドミラルトーゴー杯
 〈TOGO VI〉

I~II 1位……………海上保安庁長官杯
 〈KAZU〉

III 1位……………航海訓練所長杯
 〈つばくろ〉
 ベストクック賞

1982年 第6回沖縄・東京レース

〈EPICUREAN〉
 ファーストホーム賞…コンテッサトロフィー

〈SUMMER BOY〉
 総合優勝……………総理大臣杯, 運輸大臣杯,

NORC会長杯, シンバット杯, 沖縄県知事杯, 朝日新聞社杯, ベストナビゲーター杯

III 1位……………航海訓練所長杯, 沖縄タイムズ社杯

〈白南風〉
 I~II 1位……………海上保安庁長官杯

〈GAMERA〉
 IV~V 1位……………アドミラルトーゴー杯

〈CRANE〉
 ベストクック賞

1981年 第2回小笠原レース

〈光〉
 ファーストホーム賞…石原杯

総合優勝……………NORC会長杯, 防衛庁長官杯
 II~III 1位……………小笠原村長杯, カティーマークトロフィー

〈RODEM VI〉
 I 1位……………ローデムトロフィー, 東京都知事杯

〈MORANG BONG〉
 IV~V 1位……………小笠原マリーナ杯, 舵杯

1980年 第18回小網代カップレース

〈雲 柱〉
 総合優勝…小網代カップ

1981年 第19回小網代カップレース

〈雲 柱〉
 総合優勝…小網代カップ

1982年 第20回小網代カップレース

〈GAMERA〉
 総合優勝…小網代カップ

1982年 第1回日本縦断オーシャンカップシリーズ

〈GAMERA〉
 総合優勝…NORC会長杯
 なお、レプリカは当日のみをもって引換日とさせていただきます。入賞艇は必ず2名以上で御出席のほどよろしくお願ひ申し上げます。1930より、アトラクション、ビンゴ大会等催し物には豪華多数の賞品を用意し、お待ち申し上げております。

会 費 1名1万円
 オーナーの方ではできるだけクルーの方々をとりまとめて申し込んで下さいますようお願い申し上げます。
 申し込み締切りは、11月30日(火)とさせていただきます。

交 通 千代田線・国会議事堂前(赤坂方面出口)1分
 銀座線・赤坂見附7分

住 所 千代田区永田町2-10-3
 東京ヒルトンホテル 電話(03)581-4511

申込先 (社)日本外洋帆走協会
 〒105 港区虎ノ門1-15-16 船舶振興ビル
 4F 電話(03)504-1911~4

1982年 OFFSHORE索引 No. 82~No. 93

理事会・代議員会・総会など

第80回理事会	2月P18
関東支部代議員会及びフリートキャプテン会議開催について	4月P24
第3回全国代議員会議の開催について	4月P25
第83回理事会	9月P20
第84回理事会	11月P19

国内レース関係

神子元島ハネムーンレース	山田幸夫	1月P9
第26回神子元島レース成績表		1月P10

第4回琵琶湖シリーズ成績表	1月P12
駿河湾秋のフリート対抗レース	1月P13
秋のフリート対抗レース成績表	1月P15
第7回H.Y.C.シングルハンドレース参戦記	1月P16
内海支部フリート対抗レース	長島快文 1月P18
1981年フリート対抗レース成績表	1月P21
第8回SKKカップレース	佐伯敏則 1月P22
1981年第24回紀伊水道レース成績表	1月P23
1981年高松レース成績表	1月P23
第8回SKKカップレース成績表	1月P24
浦安オータムレース・成績表	小林勝彦 1月P25

第1回J-24クラス全日本選手権大会・成績表 金指昭郎・吉田晴彦 2月P2	第6回沖縄～東京レース成績表 7月P4 沖縄～東京レース回想 オキナワ・レクイエム 辰井栄一郎 7月P5 〈エビキュリアン〉沖縄レースでファーストホーム 大橋且典 7月P8
第19回小網代カップレース報告書・成績表 草間信二 2月P9	1/2トン〈がめら〉の沖縄～東京レース 前田利一 7月P10
関東支部フリート対抗レース第2レース(オリンピック クコース)成績表 2月P11	〈白南風〉艇長日記より 黄川田喜蔵 7月P12
第4回関東支部フリート対抗レース総合成績表 2月P12	沖縄～東京レース事故報告 〈マヤII〉 瀬戸口智彦 7月P15 〈VIND7〉 芳賀治一 7月P16
関西ビッグボートレースのお知らせ 2月P21	1982年度全日本クラス別選手権及び第4回ミニトン全 日本選手権のご案内 武市俊 7月P19
徳島のヨットマンは初日の出レースで男前の条件を確 保する 住友武 3月P6	第3回パナナム・クリッパーカップ・シリーズへのナ ショナルチーム派遣について 7月P24
初日の出レース成績表 3月P7	第2回黒船カップヨットレース成績表 7月P25
座談会 沖縄レース10周年を迎えて 4月P2	第2回黒船カップオープンヨットレース成績表 7月P25
第8回オレンジカップレース・第1回オレンジフェス ティバルレースご案内 4月P19	SEIBU-SEIYU日本縦断オーシャンカップ・シリーズ 総合で〈がめら〉優勝 8月P2
第2回黒船カップ及び黒船オープン・ヨットレースの ご案内 伊藤秀利 4月P21	第1回東京～宮城レース成績表 8月P3
第2回琵琶湖クルーザーフェスティバルのご案内 4月P28	第1回宮城～函館レース成績表 8月P3
太平洋選手権レース(パナナムクリッパーカップ・レ ース) 4月P28	第1回日本縦断オーシャン・カップ・シリーズ成績表 8月P3
初島レース・成績表 石川平八郎 5月P5	インタビュー〈がめら〉かく戦えり 8月P4
内海ビッグボートレース優勝の記 山口照雄 5月P6	第2回琵琶湖クルーザーフェスティバル・成績表 三井祥功 8月P7
第1回東京湾フレンドリーカップレース・成績表 5月P8	ジャパン・ビッグボート・シリーズ'82を終えて 関山光二 8月P10
近畿北陸支部ニュー・イヤール・シリーズ成績表 5月P24	ジャパン・ビッグボート・シリーズ成績表 8月P10
関西ビッグボートレース西宮レガッタ・成績成 松岡敏 6月P6	第32回大島レース成績表 8月P11
オレンジカップレース優勝の記 小田憲 6月P9	玄海支部 第6回ポイントレース成績表 8月P21
オレンジカップレース成績表 6月P10	'82年度上半期ポイントレース成績表 8月P21
〈オテントサン〉近頃あれこれ 松浦雄次 6月P11	前期ポイントレース成績表 8月P21
第1回オレンジフェスティバルレース成績表 6月P11	伊勢湾合同レース 初夏、名古屋港において 杉山正義 8月P22
第15回別府レース報告記 宮西勝秋 6月P12	伊勢湾合同レースにまたまたファーストホーム 水野平和 8月P23
第15回別府レース成績表 6月P12	伊勢湾合同レース成績表 8月P23
野島レース及びオリンピックレース報告 青山真 6月P16	熊野レース成績表 8月P25
今年〈長良〉は大鷲進ノ 東威志 6月P16	第9回江ノ島～清水レース成績表 8月P26
野島レース成績表 6月P16	近畿北陸支部 春季シリーズ成績表 8月P26
オリンピックレース成績表 6月P16	第23回鳥羽パールレース 渡辺修治 9月P2
豊橋港開港10周年〈日本丸〉寄港記念レース・成績表 6月P17	鳥羽パールレース成績表 9月P6
第7回五ヶ所湾合同レース経過報告 6月P18	第1回日本縦断レースの成績訂正について 9月P22
第7回五ヶ所湾合同レース成績表 6月P19	第4回ミニトン全日本選手権の変更についてのお知ら せ 9月P22
近畿北陸支部春季シリーズ・ポイントレース成績表 6月P20	第9回三宅島レース〈ポインシアナ〉落水事故報告と お願い 10月付録
第5回大島～神子元島レース成績表 6月P20	オータムシリーズ・成績表 11月P14
第3回衣浦レガッタ・成績表 6月P21	
第6回沖縄～東京レース 大儀見薫 7月P2	

'82東海フェスティバル・オータムシリーズレースをか えりみて	小林義彦	11月P15
第9回三宅島レース	井上玲	12月P2
〈おおみずなぎどり〉事故報告		12月P5
神子元島レース成績表		12月P6
1982 第5回関東支部フリート対抗チームレース成績 表		12月P7
第5回琵琶湖シリーズ・ポイントレース成績表		12月P9

国際レース関係

日本から参加した海外レース一覧表		2月P22
海外レーストピックス		2月P23
1982年チャイナシーレース&チャイナシーシリーズ		
1982年第3回パンナムクリッパーカップヨットシ リーズ		
第3回J-24クラス・ワールド・チャンピオンシップ速 報・成績表	金指昭郎	3月P2
パンナムクリッパーカップ・ヨットシリーズのお知ら せ		5月P22
世界一周シングルハンド・レース		5月P23
速報 第3回クリッパー・カップヨットシリーズ ナ ショナルチーム決定		6月P13
✓1982年クリッパーカップ・ヨットシリーズ通信		6月P27
太平洋選手権社行会		8月P19
1981年 SLOCUM賞 Gerry Spiessに……		8月P19
第3回パンナムクリッパーカップ成績表		9月P9
SUMA CUP RACE参加の記 永信修治		9月P10
第3回クリッパーカップ・ヨットシリーズ レポート その① 〈飛梅〉総合優勝ノ		10月P2
YACHT IDENTIFICATION		10月P6
第3回パンナムクリッパーカップ・ヨットシ リーズ レポートその② 〈飛梅〉の抗議に対する報告		11月P2
1982年Pan Am Clipper Cup Race〈飛梅〉のレー ティングについて 海外よりの報告 武田陽信		11月P5
クリッパーカップシリーズ 参加各艇へのアンケート 結果報告		11月P8
海外レース・インフォメーション		11月P11
海外レース・インフォメーション		12月P5

安全・船検・免許制度関係

最低備品と設備基準を規制する特別規定の改正につ いて	武市俊	3月P10
お知らせ 海技免状が更新制になるノ		6月P5
船員法及び船舶職員法の一部改正について		8月P13
救命器具等に取り付ける反射テープの取り扱いにつ いて		12月P14
安全委員会より		12月P17

計測・技術関係

ORC会報第33号	渡辺修治	2月P13
技術・計測委員会からのお知らせ		3月P17
1982年IORレーティング証書	渡辺修治	5月P18
計測委員会からのお知らせ		5月P29
計測委員会からのお知らせ		6月P27
IOR (1982)	渡辺修治	7月P20
計測委員会より		10月P8
専門委員会からのお知らせ	技術委員会	10月P20

ルール関係

専門委員会からのお知らせ	ルール委員会	10月P19
--------------	--------	--------

その他の委員会

編集委員会よりのお知らせ		5月P21
計測委員会からのお知らせ		5月P29
専門委員長会議の開催		5月P31
帆走委員会からのお知らせ		8月P27
通信委員会より		10月P16
専門委員会からのお知らせ		10月P19
ルール委員会		10月P19
海事思想普及委員会		10月P20
泊地対策委員会		10月P20
技術委員会		10月P20
クリッパーカップシリーズ 参加各艇へのアンケート 結果報告		11月P8
帆走委員会からのお知らせ		11月P21

各水域だより

内海支部フリート対抗レース	長島快文	1月P18
西内海だより 西内海支部創立の前後		
	田中敬一	1月P29
玄海だより 南九州フリート結成によせて		1月P30
1982年度NORC近畿北陸支部レース予定(案)		
		2月P17
玄海だより パンナム・クリッパーカップ・レースに 向けて	片倉静江	3月P11
西内海だより 昭和49年を回顧して		
	田中敬一	3月P12
玄海だより 船酔いと精神分裂	片倉静江	4月P23
玄海だより デインギー転覆死亡事故を振り返って		
	片倉静江	5月P25
東海だより 野島レース及びオリンピックレース報告		
	青山真	6月P16
今年〈長良〉は大鷲進		
	東威志	6月P16
野島レース成績表		6月P16
オリンピックレース成績と総合順位得点		6月P16
豊橋港開港10周年〈日本丸〉寄港記念レ ース・成績表		6月P17

第7回五ヶ所湾合同レース経過報告・成績表	近藤文雄	6月P19	石井浩一・フィアーナ	9月P15
東海支部例会報告	市川勇	6月P19	車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	
内海だより 内海支部ランデブー記	妹尾達樹	7月P23	石井浩一・フィアーナ	10月P13
玄海だより		8月P20	車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	
玄海支部 第6回ポイントレース成績表		8月P21	石井浩一・フィアーナ	12月P8
'82年度上半期ポイントレース成績表		8月P21	気象・海象	
前期ポイントレース成績表		8月P21	海洋速報	3月P14
東海だより 伊勢湾合同レース・成績表		8月P22	黒潮とその変動	二谷 穎男 4月P8
初夏、名古屋港において	杉山正義	8月P22	海洋速報	4月P21
伊勢湾合同レースにまたまたファーストホーム	水野平和	8月P23	夏期の関東・東北沖の海流概況	二谷 穎男 5月P10
チビっ子体験乗艇		8月P24	宇宙から海流を測る	長坂 昂一 5月P14
熊野レース成績表		8月P25	海洋速報	5月P27
北海道だより 野村輝之	9月P11		気象庁からのお知らせ	7月P25
友情に支えられて初めて実施した日本縦断オーシャンカップシリーズ	上河睦美	9月P13	講習会関係	
玄海だより 最初で最後になった空パース抽選会	片倉静江	9月P18	海事法令指導講習会・小樽報告	橋本文義 1月P26
玄海だより 「もっとパースを！」	伊達健太郎	10月P11	外洋帆走指導普及	助野 4月P21
東海だより オータムシリーズ・成績表	11月P14		海事思想普及 沖縄報告	城間 祥行 7月P18
'82東海フェスティバル・オートムシリーズレースをかえりみて	小林義彦	11月P15	チビっ子体験乗艇	8月P24
衣浦開催について	市川勇	11月P16	海事思想普及 ヨット体験乗艇	10月P9
山の子、海の子交歓会		11月P16	海事思想普及 静岡県ジュニアヨット大会	11月P11
玄海だより 「もっと大志を抱こう！」	片倉静江	12月P10	第5回招待クルージング	11月P12
紀行・クルージング			新登録艇の紹介	
気分だけでも南太平洋……	瀬川洗城	4月P16	1月P31 2月P24 5月P31 7月P27 9月P23	
瀬戸内海航海記	野村侃	6月P2	10月P24 12月P24	
シドニー湾の休日	倉本昌治	8月P12	その他	
SUMA CUP RACE参加の記	永信修治	9月P10	謹賀新年 年頭の挨拶	石原慎太郎 1月P2
ハワイへの航海	佐伯敏則	11月P9	オリンピックにヨットマラソンを	山本房生 1月P2
随筆・読物			'82年 年頭に当たって	秋田博正 1月P3
車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	石井浩一・フィアーナ	1月P7	新しい年を迎えて	大儀見薫 1月P4
車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	石井浩一・フィアーナ	2月P15	'81年後期表彰式及び年末大パーティー	1月P5
船霊の航路	楠本正	5月P2	“みさきヨット” 海岸局の強化化	篠原要 1月P17
車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	石井浩一・フィアーナ	5月P15	話題のビーケン写真集	1月P20
車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	石井浩一・フィアーナ	6月P15	社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	1月P27
車イスの人魚“フィアーナ”が海に還る日	石井浩一・フィアーナ	6月P15	セール番号の取り消しについて	1月P31
			海外レース懇談会	2月P19
			通常総会・代議員会等の開催について	2月P24
			NORCからのお知らせ「ビーケン写真集」	2月P24
			海の仲間はセール番号を！」	3月P4
			船舶のトン数の測度方法の変更と国際トン数確認書について	3月P8
			東京水路及び東京航路の交通管制等について	3月P13
			「ヨットチャート」にかかわろう	
			大橋 郁夫	3月P15
			社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	
				3月P16

第21回東京国際ポートショー	4月P14
オフショアレレーサーのためのトレーニングTORについて	関山光二 4月P19
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	4月P22
全国海上交通安全運動実施について	4月P27
お知らせ 第5回沖縄〜東京レースに便利な新刊を紹介	4月P28
通信機器頒布のお知らせ	5月P26
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	5月P28
速報 1980年クリッパーカップシリーズ記念映画上映会のお知らせ	5月P31
お知らせ 海技免状が更新制になる!	6月P5
ふたたび「ヨットチャート」に 大橋郁夫	6月P22
各専門委員の紹介	6月P23
「海の旬間」実施	6月P26
青い羽根募金	6月P28
開いてよかった!	6月P28
「国連平和賞」の受賞	7月P24
各専門委員の紹介	7月P26
会費納入のお願い!	7月P27
電波航法システムとは	8月P14
太平洋選手権レース社行会	8月P19
1981年SLOCUM賞 Gerry Spiessに……	8月P19
'82NORC夏まつり	8月P25
ちびっ子にヨット下敷	8月P25
お知らせ 各専門委員の紹介	8月P28

ヨットینگ・チャートの新シリーズ着々進む	9月P17
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	9月P19
ヨットカレンダーのご案内	10月P14
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	10月P15
NORC頒布物品のお知らせ 通信委員会より	10月P16
事務局より	10月P17
日本外洋帆走協会30周年記念事業について	10月P18
世界選手権(アドミラルズカップ)補助金申請決定	10月P18
訂正とおわび	10月P24
ヨットカレンダーのご案内	11月P17
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	11月P18
女性会員用「スカーフ」ができました	11月P22
ヨットチャートその後	11月P22
全国海難防止強調運動に対する協力依頼	11月P22
日本の新しい浮標式	12月P11
社団法人日本水難救済会救難所(支所)所在地表	12月P13
救命器具等に取り付ける反射テープの取り扱いについて	12月P14
1982年NORC主催・X'マスディナーパーティー(お知らせ)	12月P18
お知らせ 関東支部特別及び正会員の皆様へ	12月P24

OFFSHORE No.93
昭和57年12月15日発行(毎月一回15日発行)
昭和52年7月21日第三種郵便物認可

新登録艇の紹介

セール番号, 艇名, 帆装, フリート, 全長×水線長×巾×吃水, オーナー名, その他の順
☆印は会友艇

3063 ブレークポイント ヤマハ21-S サントピア
堀田卓, 堀田京子(共同) / 艇名の由来: 艇名をつけるのを困っていた。なぜかという、進水するまでに艇名をつけたかったから。結果はあまり意味はなく、ただテニスを学生時代からずっとやっていたので「ブレーク・ポイント」と名づけた。/ 抱負: スポーツがへたなくせに非常に好きなので、レースを体がつづく限りやっつけていこうと思っている。そして艇をおりても良き友としてつきあえるチームをつくりたいと思っている。良き理解者である妻京子とともに。/ クルー: 吉井隆; 大西洋シングルレースを夢みるガッツのある男。スキッパー&フォアデッキ。加藤; 新人だがこれから楽しみな男(セミプロのカメラマン)

お知らせ

関東支部特別及び正会員の皆様へ

NORCの代議員が改選されます。関東支部選出代議員は、各フリートごとに選出致しますので、立候補希望者は12月17日までに各所属のフリートキャプテンに届け出て下さい。

関東支部選挙管理委員長

OFFSHORE 第93号 昭和57年12月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911-3 〒105
郵便振替番号 2-21787

印刷 株式会社 廣済堂